

まちに広がる学びの輪

学びの舞台は学校だけではありません。「まち全体が学びの場」を合言葉に、時には校舎を飛び出して、町の歴史や文化、人との交流の大切さを学びます。児童が地域の人たちから学び、心を通わせる様子をのぞいてみましょう。



おっきいダイコン採ったぞー！

津森小 採れたて！「伍三郎大根」

農業を身近に感じてもらい、食べ物を育てる大変さと大切さを伝えるために、地域住民・農家・PTAと連携して管理を続けている「伍三郎農園」。現在は、中川敏夫さんを中心にさまざまな農作物を育てています。今日は3・4年生の児童がダイコン掘りに挑戦！愛情たっぷりに育った大きなダイコンをよっこいしょ！と一生懸命に引き抜きました。



中川敏夫さん(堂園)



自分たちの手で一本一本大事に刈り取り

益城中央小 生産過程を知る「稲刈り体験」

5年生の児童たちが、福永貴大さんの田んぼで鎌を使った稲刈りを体験しました。刈り取った稲は、米の重さにして約140kg。1日にどれくらいの稲を刈るのかという質問に対し、福永さんが「普段は機械を使って東京ドーム1個分くらいの広さを刈り取ります」と答え、児童から驚きの声が上がりました。

こうした体験で、食べ物を大切にする心や作り手に感謝する心が育まれます。



福永貴大さん(平田上)



自分たちで作った市だごをパクリ！

広安小 思い出の味を次世代へ「市だご作り」

「今回、実は私たちも初めて作り方をしっかりと学んだんです」そう語るのは食生活改善推進員(食改さん)の森美智子さん(安永4町内)。古くから郷土菓子として町民に愛され、木山初市で販売されることでも有名な「市だご」。3年生の児童は、食改さんの指導の下、市だご作りにチャレンジ！こうした地域学習を通じて、郷土を代表する味が受け継がれ、さらに次世代へとつながっていきます。



市だごのことを教えてくれた食生活改善推進員の皆さん



地域と子どもたちをつなぐ役割

きんした ドリーム益城っ子 木下かおりさん

地域連携に関わるのも12年目になります。これまでの活動を振り返って、児童がただ地元の文化や歴史を学ぶだけでなく、自分たちを支えてくれている地域の人たちと交流を深め、住んでいる町を誇りに思い、古里を大切に思う心を育むためのサポートができていることを、何よりもうれしく思います。

広安西小



「まち探検」で地域の魅力を発見

自分の住んでいる町のいろいろな施設を訪問し、地域の人に話を聞く「まち探検」。2年4組の児童は、古閑・福富地区を探検しました。古閑地区では、坂澤光司さんが、「古閑地蔵堂」の歴史や行事、地域の憩いの場としての役割を説明。福富地区では、福島俊美さんが、「福富妙見神社」の歴史やそのご神木の紹介と、地域の防災を支える防災公園・消防団詰め所の役割を詳しく解説しました。



㊦地蔵堂に掛けてある絵はいつからあるの？
㊦消防団詰め所にある赤い棒は何に使うの？



Q「ラクダのゲップは臭かったですか？」
A「音の大きさにもびっくりしたけど、臭いもびっくりするほど臭かったです」

夢の大切さを伝える「夢語りタイム」

「世界には200近い国があります。ぜひ自分の目でたくさん国を見てほしい」そう語るの、元外務省職員の吉本徹也さん。「夢語りタイム」では、地域の人などが自分の夢や、その夢に向かって努力したことを児童に伝えます。いろんな国に行きたいという夢をかなえるために外務省に勤務した吉本さん。海外生活の17年間で出会った驚きの体験や現地の人との交流などを紹介しました。



吉本徹也さん(下砥川)